



西新井 消防団だより

発行 令和6年3月 No. 99

編集・発行
西新井消防団 広報委員会

火事は近いよスリバンだ♪

『お祭りマンボ』の歌詞に出てくる『スリバン』とは？

消防信号								種別
演習召集信号	火災警報解除信号	火災警報発令信号	山林火災	火災信号			近火信号	種別
			應援信号	出場信号	鎮火信号	報知信号	應援信号	出場信号
(一突と三突との連打)	(二突と二突との連打)	(一突と四突との連打)	(三突と二突との連打)	(三突と二突との連打)	(一突と二突との連打)	(一突)	(二突)	(三突)
							(連打)	
								打鐘信号
								余
					その他の信号			

江戸時代から昭和40年前後まで、火の見櫓（望楼）の上などに取り付けた半鐘という釣鐘を叩くことで地域住民に火災発生を知らせていました。

火災現場までの距離が近いとき「カンカンカンカン」と鐘の内側を連打で鳴らすのですが、この鳴らし方を擦り半鐘、略して擦り半（スリバン）と呼んでいたのです。



望楼には梯子が固定されていたが、角度はほぼ垂直しかも揺れまくり、安全ロープもなく上がっていくのは実は結構怖かった…



深川江戸資料館の半鐘
火事が近く、スリバンで早く叩く時は、撞木という木槌を半鐘の内側に入れて連打していた。

教えて/ベさん! 昭和の消防団あるある



野辺庄之助さん（昭和36年入団 西新井消防団 第9代団長）に望楼があった頃のお話を伺いました。

◆西新井消防団の歴史◆



戦前の消防団は『江北消防団』

→太平洋戦争中は『警防団』

→戦後『西新井消防団』となり、

その後『足立』と『西新井』に分かれたんです。

写真：望楼と火災（昭和33.2.25）

西新井署の火の見櫓

普段は登れない
西新井消防署の「火の見櫓」からの眺望



「西新井5年のあゆみ」
表紙より



西新井消防署1階にある「防災の鐘」

望楼の歴史

死者10万人ともいわれる1657年の明暦の大火後、江戸復興計画として防火、初期消火は重要な課題だった。幕府は武家、寺社、町民を大移動させ、住民が移動した跡地に火事の延焼をおさえる17箇所の防火帯をつくり火除け地と名付け、翌年には定火消を設けた。

飯田橋、市ヶ谷、御茶ノ水、麹町の四箇所に火消役の屋敷を造り、そこに火災監視を目的として建設した望楼が火の見櫓の始まりである。

明治後期から鉄骨となった火の見櫓は、太平洋戦争中には土台を残して多くは没収され、火の見櫓の心臓である半鐘は密かに保管されることも多かったという。戦後の復興とともに火の見櫓の建設は日本全国に広がり昭和の風景となったが、無線や高層ビルの出現と共に火災監視としての役目を終えていった。✓



昭和35年8月の足立区防災訓練
(望楼に登り半鐘を叩く人が見える)

足立区郷土資料館 収蔵資料データベースより
しかし、火消し達が命懸けで叩いた半鐘は、消防団の積載車に設置されているカンカンという警鐘音として現在も生き続けている。



②江戸川区立新川西水門広場の火の見櫓

こちらは土曜日のみ、
上まで登ることができます。



半鐘は外してありました。

定火消発祥の地

東京都新宿区市谷田町1丁目
JR市ヶ谷駅の近くです。



◆消防団と町会の『蜜月関係』◆

元々は農家や商家の家を継ぐ長男が消防団に入っていたこともあり、昭和40年前後まで使用されていた手押しポンプも、町会がお金を出して消防団に寄付してくれました。消防団は地域を守ることで信頼を得て、町会との繋がりは確固たるものであり、望楼も町会と消防団が管理していました。



◆環七開通と区画整理◆

西新井は戦前から田んぼが多かったため、幅の狭い農道は消防車が入れなかったり、入っても脱輪してしまうこともありました。しかし環七開通のための区画整理に伴い、道路も整備され同時に望楼は役目を終え撤去されていきました。

都内で見学できる望楼

①江東区深川江戸資料

文政町方書上(国立国会図書館蔵)の中の「佐賀町総絵図」を基に作られたという、火の見櫓をはじめとする庄巻の屋内展示!



ひよち
火除け地

明暦の大火後、延焼防止のために設けられた広場。簡単に移動可能な屋台の出店のみ認められていた。

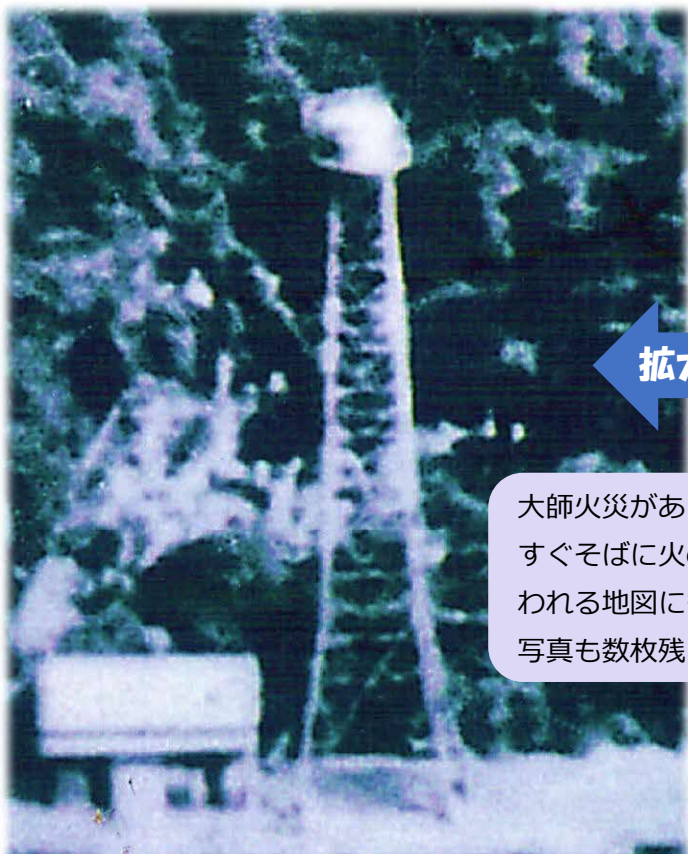


ひよち
火除け地



手押しポンプを使っていた頃、火事場では野次馬がポンプ押しを手伝ってくれた。だけど残務処理のときはスーツといなくなる(笑)
ホースは自分達で用水路をせき止めて水洗いし、望楼で干していました。





拡大!

大師火災があった昭和 41 年頃までは西新井大師のすぐそばに火の見櫓があった。昭和初期のものと思われる地図にも火の見櫓のマークが記されていて、写真も数枚残されている。



昭和 41 年の火災で焼失する前の西新井大師の左奥に望楼が見える



かつて望楼が立っていた
足立区立鹿浜校址公園
東京都足立区鹿浜 3 丁目



桜の木のあたりに望楼と格納庫があったが、区画整理で取り壊されて格納庫だけが近くに移設された。

(写真右は移設された現在の 8 分団防災資機材格納庫)



【出典・資料提供・取材協力】(順不同)
火の見櫓 地域を見つめる安全遺産 鹿島出版会
西新井 5 年のあゆみ 西新井消防署
足立の消防 50 周年記念誌 足立消防署
足立区郷土資料館 収蔵資料データベース
西新井大師商栄会 昔の西新井大師門前周辺
優美写真商会
江東区深川江戸資料館
江戸川区立 新川西水門広場 火の見櫓
新宿区教育委員会「定火消発祥の地」歴史標柱除幕式
イラスト 桐ヶ谷永音様
野辺庄之助様、藤田詔様、篠原弘治様、関口哲男様
ユニバーサルミュージック合同会社

©2024 nishiarai.vfc



消防団員募集

西新井消防署
03-3853-0119

入団エントリーは
QR コードからも



西新井 消防団だより

の WEB 版が
PC・スマホでさらに
より多い情報をご覧
いただけます!